

笹川科学研究助成金からの始まり

九州大学大学院 理学研究院 木村 崇



笹川科学研究助成金を頂いてから、既に12年以上も経過してしまい、時が進むのが非常に早いを感じております。取りも直さず本助成金は、私に取りまして、初めて採択された助成金であり、大変感慨深いものがあります。当時は、博士号取得に向けて一定の成果も出ていたので、本制度を活用させて頂いて、残された期間、少し挑戦的な研究ができないかと思い計画しました。幸運にも採択して頂き、新しい物質を使った実験など、色々と自分の裁量で実験できる喜びを味わうことができました。この助成金で始めたスピンの研究テーマがきっかけで、博士号取得後、理化学研究所で博士研究員として採用して頂くことができました。そこでは素晴らしい上司の下、スピンの研究を更に発展させ、運良く一定の成果を挙げることができました。その後、様々な理論や技術の発展が有り、発足当初とは、かなり内容も変わりつつありますが、現在も尚、スピンに関連した研究を推進させて頂いております。このように、本助成制度には、まさに今の研究のきっかけを与えて頂いたと改めて感謝しております。

実験系の研究では、テーマを設定するに辺り、本人の能力だけでは無く、研究設備や周りの研究者など研究環境も重要になってきます。非常に幸運なことに、私にとりましては、それらは大変充実していました。最新鋭の実験装置、優秀で信頼できる上司・同僚の存在など、相当野心的な研究テーマを設定しても、『できるんじゃないか』と思えるような、チャレンジ精神を掻き立てる研究環境がありました。勿論、これらが有れば、必ず成功するわけではなく、大半が構想通りに行かないのですが、成功を信じて、粘り強く研究を続けていると、解決の糸口が見つかることが多いです。長く時間がかかり、大変疲れる実験であればある程、成功した時の喜びはひとしおなのは当然です。

現在、私も年を重ねまして、一研究室を主宰させて頂いており、多くの学生や若手研究者を指導・教育する立場となっております。研究室主宰者としての役目の一つが、彼らのチャレンジ精神を掻き立てる研究環境の構築であると考えており、若者に目一杯努力して頂くことで、沢山の喜びを味わってもらいたいと感じています。そして、人類の幸せな暮らしに貢献する技術の創出、また、これからの日本の科学技術・産業の発展に貢献するたくましい人材を育成して行きたい所存です。

研究成果が最終的に世の為、人の為に役に立ってこそ、価値のあるものと思いますし、そのような研究を実現することでこそ、日本科学協会に恩返しできるものと信じています。